

11/14 **変更** 打上げ日時が変更となったため



空宙博 岐阜かがみがはら
航空宇宙博物館
GIFU-KAKAMIGAHARA AIR AND SPACE MUSEUM



GIFU



各務原市政記者クラブ同時配布資料



| 令和2年11月12日(木) 岐阜県発表資料 | | |
|--|----------|--|
| 担当課・係 | 担当者 | 電話番号 |
| 岐阜かがみがはら航空宇宙博物館指定管理者 (公財) 岐阜かがみがはら航空宇宙博物館 | 川瀬 柴田 | 直通058-386-8500 FAX 058-386-9912 |
| 航空宇宙産業課 企画連携係 | 森 田島 | 内線2936 直通058-272-8836 FAX 058-278-2653 |
| 各務原市 航空宇宙博物館運営推進室 | 富田 柳澤 | 直通058-383-9926 FAX 058-389-0765 |

野口聡一宇宙飛行士が国際宇宙ステーションへ！ 空宙博で打上げのパブリックビューイングを開催します

岐阜かがみがはら航空宇宙博物館（愛称「空宙博（そらはく）」）では、11月15日(日)に、(国研)宇宙航空研究開発機構(JAXA)の野口聡一(のぐちそういち)宇宙飛行士を乗せたロケットが、国際宇宙ステーション(ISS)に向けて打ち上げられる模様を生配信するパブリックビューイングを下記のとおり開催します。

迫力ある映像と音響でロケットの打上げを見守り、ミッションの成功を応援しましょう！

記

- パブリックビューイング開催概要 11月18日(月) 8:50~9:50頃(予定)**
開催日時 令和2年 ~~11月15日(日) 9:00~10:20頃(予定)~~
※打上げは9: ~~49~~²⁷ (日本時間) の予定
開催会場 空宙博1階 シアタールーム
内容 YouTube「JAXA Channel」を通じて、打上げの様子や野口宇宙飛行士のミッションを紹介します
定員 140名
参加方法 先着順(事前申込は不要)
参加料 不要 ただし、通常の入館料が必要です
その他 参加者には空宙博オリジナル缶バッジをプレゼントします

2 留意事項

打上げ関係者やJAXA側の都合により、打上げが中止・変更等される場合があります。

中止・変更等は、判明次第速やかに空宙博ホームページでご案内します。

<http://www.sorahaku.net>

そらはく

検索

また、詳細な情報は JAXA ホームページもあわせてご覧ください。

<https://astro-mission.jaxa.jp/noguchi/>

(参考)

1 打上げの概要

15日(日) 19:27

| | |
|-------|---|
| 打上げ日時 | 令和2年11月 14日(土) 19:49 (現地時間) |
| 発射場所 | NASAケネディ宇宙センター (米フロリダ州) |
| 目的地 | 国際宇宙ステーション (ISS) |
| 搭乗者 | 野口聡一、マイケル・ホプキンス、ビクター・グローバー、シャノン・ウォーカー (ともに米国人) 全4名 ※野口宇宙飛行士は3回目の長期滞在 |
| 搭乗機 | ロケット：ファルコン9 宇宙船：クルードラゴン運用初号機「レジリエンス」 (ともに米国の民間企業スペースX社が開発) |
| 備考 | 日本人宇宙飛行士としては初めて民間が運用する宇宙船に搭乗 |

2 野口聡一 JAXA 宇宙飛行士の略歴

- 1965年 神奈川県横浜市生まれ。
- 1991年 東京大学大学院工学系研究科航空学専攻修士課程修了後、石川島播磨重工業(株)入社 (航空宇宙事業本部に所属し、ジェットエンジンの設計及び性能試験業務を担当)。
- 1996年 JAXA (当時はNASDA) 宇宙飛行士候補者に選定され、JAXA 入社。
- 1998年 NASA からミッションスペシャリストに認定される。
- 2001年 スペースシャトル (STS-114) 搭乗員に任命される。
- 2005年 スペースシャトル「ディスカバリー号」による国際宇宙ステーション組み立てミッション (STS-114) に参加、3回の船外活動のリーダーとして、軌道上でのシャトル耐熱タイルの補修検証試験等を行う (船外活動時間延べ約20時間)。1回目の宇宙飛行。
- 2009年 日本人初の船長補佐として、ソユーズ TMA-17宇宙船に搭乗。ISS 第22次/第23次長期滞在のフライトエンジニアとして、ISS に約5ヵ月半滞在し、「きぼう」日本実験棟ロボットアームの子アーム取付けや実験運用などを実施。2回目の宇宙飛行。
※滞在中の2010年4月には山崎直子宇宙飛行士が ISS に到着し、日本人宇宙飛行士2名が軌道上に同時滞在し、様々な共同作業を実施。
- 2020年 東京大学大学院工学系研究科先端学際工学専攻博士課程修了。